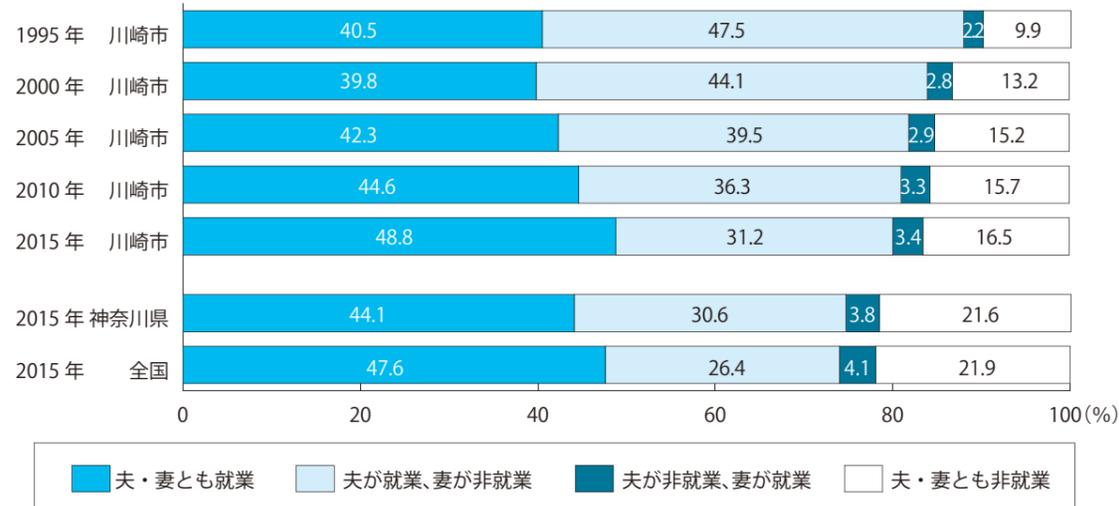


## 夫婦の働き方、生活の希望と現実

ここでは、かわさきで働く人びとを夫婦の働き方(共働き、片働き)という観点から見てみましょう。また、人びとが仕事や家庭、地域での活動について、どのような希望を持ち、どのような現実を生きているかも併せて見てみましょう。

### 夫婦の就業状態



出典：総務省統計局「国勢調査」、および川崎市「川崎市の人口(3)平成27年国勢調査結果報告書(人口重心及び就業状態等基本集計結果)」を元に作成

夫婦の働き方は、夫婦ともに就業する共働きと、男性が就業し女性が家で家事や育児をする片働き(専業主婦)の2つが全国では20年以上前(1997年)に逆転しています。川崎市でも、2000年には夫が就業し妻が非就業の世帯が多かったのが、2005年には夫・妻とも就業の世帯割合が最多になるという変化を見せています。2015年時点では、全国、神奈川県それぞれと比較しても、川崎市の夫・妻とも就業している世帯が48.8%と多いことがわかります。

### 子育て世帯は、本当に“共働き”と言えるのか

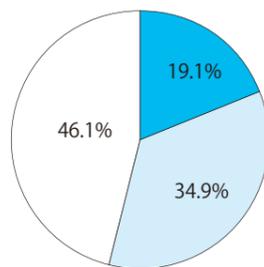
「夫婦と子供から成る世帯」のうち、妻年齢を25-34歳に限定し、さらに、「夫が週35時間以上雇われて働いている世帯」を取り出し100%にすると、週35時間以上雇用されて働いている(フルタイム)共働きはどれくらいいるかがわかります(筒井 2020)。このアイデアに基づき、最新のデータ(2019)で確認すると、答えは19.1%です。一方、専業主婦世帯は34.9%であり、これらの限定条件を付けた中では、約1.8倍の差があることがわかります。

参考文献等

筒井淳也 2020.2「日本で共働きが進まなかったのはなぜか：ほんとうに必要な働き方改革」  
<https://wezz-y.com/archives/72511> (2020.2.21 取得)

### 妻の労働力状態

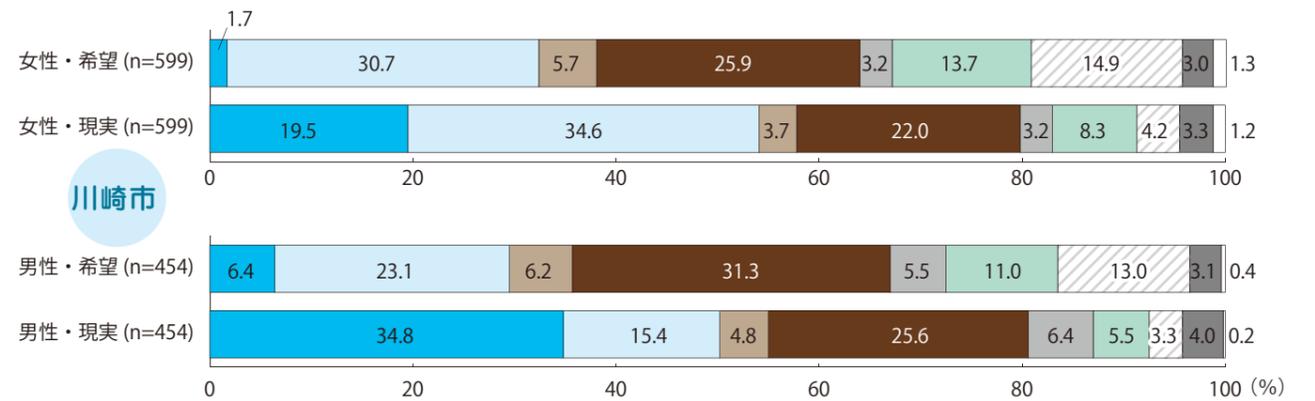
\*夫が週35時間以上雇用者である、夫婦と子供から成る世帯の妻(母数：152万世帯)



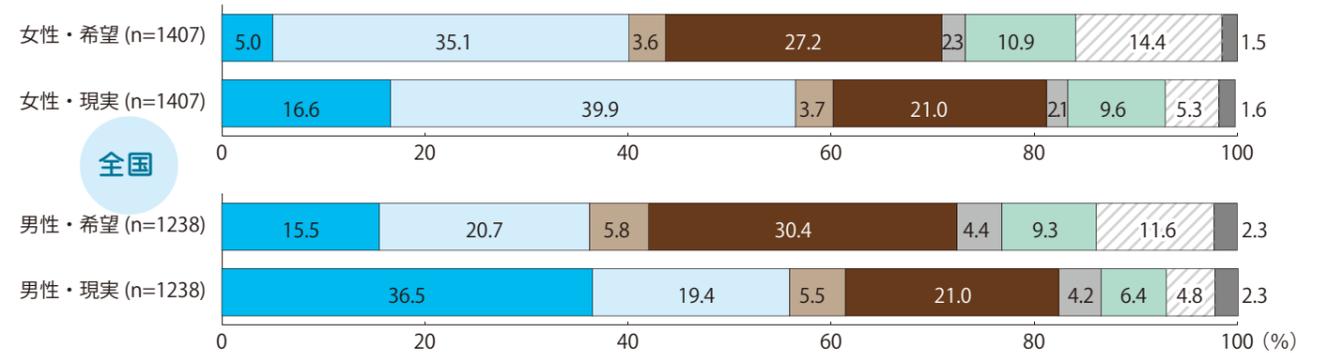
■ 妻週35時間以上 ■ 専業主婦(非労働力) □ その他

出典：総務省統計局「労働力調査」(2019)を元に作成

### 生活優先度の希望と現実



出典：川崎市男女共同参画センター、2018、「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」を元に作成



出典：内閣府、2019、「令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査報告書」を元に作成  
<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/index.html> (2019.12.1 取得)

### 希望と現実にギャップのある現状

仕事や家庭、地域・個人の生活のうち、いずれを優先したいかの希望と、いずれが優先となっているかの現実を聞いた結果からは、希望と現実にギャップのある現状が見えてきます。

川崎市では、女性は「家庭生活を優先したい」人と「仕事と家庭をともに優先したい」人が多く、次いで、「家庭と地域・個人をともに優先したい」、「仕事と家庭と地域・個人をともに優先したい」人も多く見られます。一方の現実には、希望よりも「仕事を優先している」人が多く、仕事、家庭、地域・個人の3つとも優

先することが難しいことがわかります。男性では、家庭優先や仕事と家庭をともに優先したい希望を持ちながらも、「仕事を優先している」人が多いことがわかります。全国では、おおよそのトレンドは、男女とも川崎市と同じです。

以上のことから、希望の上では、男女ともに仕事のみや家庭のみを優先するのではなく、両立志向が見られるのに対し、現実には、男性は仕事を、女性は家庭を優先する性別役割分業が存在していることがわかります。